発行日 2011 年 6 月 No.39 **援助協力・特別号**



ハイライト:

- ・巻頭言『危機の時の協力』
- 東日本大震災救援の取り組み
- ・ボランティア活動報告

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い (ピリピ 1:27)



「危機の時の協力」



JEA 援助協力委員長 中台 孝雄

4月25日(月) 夜。お茶の水クリスチャンセンター8階の中会議室は、予想を超えた多くの人々であふれていました。

東日本大震災から一月半ほど経ち、 それぞれに救援活動に取り組んでいた

JEA 加盟の諸教派・諸団体の実務担当者の最初の会合が開催され、急な連絡ではありましたが、日々被災地で働いておられる多くの団体の実務者の方々が集まってくださったからです。

予定では、それぞれの報告をして後に、 JEAに所属するお互いとして何ができるか、 どのように協力し合うか、今後どのように活動を進めていくのか、被災地のキリスト教会と の連携はどうか、そうした事柄を話し合いた かったのですが、あふれるような数々の報告 が続き、結局その夜は諸報告を互いに語り合い、聞き合うだけで終えることとなりました。

それほど今回の大震災では、皆が一斉に動きました。16年前の阪神大震災の救援活動を経験しているから、あるいはその時の反省から多くのことを学んだから、16年という時の積み重ねを経て、多くの教派が災害対策本部あるいは対策室といった組織を起動させ、被災地に赴きました。被災地に近い地域の諸教会も自ら被災しつつ、現地のネットワークを構築して救援活動に着手しました。インターネットで多くの有志が諸情報を自発的に発信し、集め、まとめて、再発信しました。

確実に私たちは救援の新しい地平に立っています。 災害自体も、大地震と大津波に原発

の破損も加わり、複雑な様相を呈しています。 また被災地のキリスト教会の状況も、阪神・ 神戸地区と東北・北関東地区では大きく違い ます。

JEAは、日頃から強い協力関係にあるJEMA(日本福音宣教師団)の取り組む救済活動であるCRASH Japan とまずは協力態勢を組んでいます。同時にJEA加盟の諸教派・諸団体が取り組む救済活動の良きコーディネイター役を果たしたいと願っています。援助協力委員会を中心としてこの大震災への対応のために災害対策室を設け、複数の理事が担当者として加わりました。被災した諸教会への訪問・お見舞いにも取り組んでいます。

諸外国のキリスト教会からの種々の協力と支援もあります。 世界中のクリスチャンから祈られています。

「いつかはこの地に福音を」「被災した方々に キリストにある救いを」届けたい、伝えたい、 という願いは、クリスチャンならだれしも抱く思 いでしょう。けれどもまだその「時」ではない のかもしれません。まずは被災し、痛みと悲し みの中にある方々にキリストの愛をいただいて いる者として静かに、そっと寄り添い、仕えよ う、被災地の教会の声に耳を傾け、応えるも のであろう。そうした声があります。

大震災から3か月あまりが経ち、一斉に走り出していた救援活動も(多少の混乱を経験して)これからのあるべき姿を模索しつつあります。現実に、遅々として事態が改善しない被災地の深刻な状況の中で、私たちに何ができるのか、どう進むべきか。一昨年の第5回日本伝道会議で語り合い、決意した「危機の時代の宣教協力」の内実が問われています。

試行錯誤は続くのでしょうが、決意はしっかりもって、協力して主のみこころに仕えていきましょう。

目 次

《巻頭言》

『危機の時の協力』

東日本大震災救援·復興

の取り組みについて

ボランティア活動報告 3

支援金献金中間報告 4

東日本大震災 救援・復興の取り組みについて

JEA 総主事 品川謙一

東日本大震災からの救援・復興に向けた JEA の取り組みについてご報告いたします。

- (1) JEA は中台孝雄援助協力委員長を室長とする「JEA 東日本大震災対策室」を 2011 年3月25日に設置しました。また原田憲夫理事長、中台孝雄援助協力委員長、品川謙一総主事などによる現地視察・訪問を経て、4月18日の理事会で、大井満、小平牧生、佐々木望、細井眞(五十音順)各理事を加えた対策室プロジェクトチームを発足させました。
- (2) JEA の東日本大震災救援・復興の取り組み は以下の3つの流れを柱として進めていきます。
 - ①各教団・教派による救援・復興活動(主に被災教会が所属する教団・教派)。地域的には各教団・教派の教会がある場所に限定される。
 - ②超教派での救援・復興活動(主に被災教会がない教団・教派)。地域的には上記①でカバーされていない地域に支援をしていきたい。
 - ③協力会員である各救援団体による救援・復 興活動。
- (3) これら3つの流れが互いに連携・協力できるよう、震災対策室が中心となって、JEA 内のネットワーク構築を目指します。
- (4) また②の超教派での救援・復興活動において、 JEAはJEMAとの協力関係の中で、クラッシュ・ ジャパンと連携し、ボランティア活動を推進しま す。そのために、クラッシュ・ジャパン本部およ び地域拠点(ベースキャンプ)に奉仕者を派遣 し、地域教会との連携をはかりながら諸教会を 支援します。

- (5) 安全かつ効果的な救援・復興活動ができるよう③の各救援団体とともにボランティア・トレーニング・セミナーなどを適宜開催します。
- (6) 援助協力委員会の責任で、国内外からの支援 金を適切に管理・支出・報告します。震災対 策室が被災教会の情報を集約し、見舞金など の分配を行います。
- (7) 2011 年度 JEA 総会において、「東日本大震 災 キリスト者の証言」のテーマで被災地域の 教職方に証言をしていただき、祈りをともにしま す。また JCE5 のテーマ「危機の時代における 宣教協力~もっと広く、もっと深く~」を新たに 心に刻み、具体策等について話し合うときをも ちます。

現在、(4)のクラッシュ・ジャパンとの連携においては、震災対策室内クラッシュ担当の石田敏則師を中心とした諸教団の先生方が、5月初めからクラッシュ本部に入り、日本の教会からのボランティア登録・派遣のプロセスが整備されつつあります。 今後、夏に向けてスムーズなボランティア派遣がなされていくよう努力しています。

(6)の見舞金分配は、5月18日からJEA 理事の先生方などが被災教会をまわって、第一段階の見舞金をお届けし始めています。各教団、教派などからの被災情報をもとに建物被害のあった教会に一律8万円、牧師家庭に5万円をお届けしています。今後、被災状況に応じた支援や復興のための支援の枠組みなどについても検討していく予定です。

現在の大きな課題は、(3)の支援ネットワーク構築です。実りある取り組みがなされていくよう、引き続きお祈りとご協力をお願いいたします。



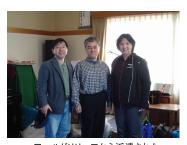
中台孝雄援助協力委員長が 見舞金を届けた大船渡聖書バプテスト 教会 床上 2m まで浸水したとのこと



元理事の中澤啓介師が特使として 見舞金を届けた湯本キリスト福音教会



新しいクラッシュ本部にて



ワールドリリーフから派遣された インドネシアのジョアン・デ・ベレン氏 (右)



クラッシュ那須ベースの リーダーチームによるオリエンテーション

ホーリネスチーム ボランティア活動報告

JEA 援助協力委員 松本 順

ホーリネスチーム 第4回ボランティア報告 (第1回クラッシュ・エモーショナルケア・ボランティア) 参加者11名 日時 2011年4月25日~28日 宿泊場所 那須高原ハウスオプレスト 活動場所 福島県郡山市

避難所ビックパレット福島

4月25日午後1時に那須高原ハウスオブレストに 到着するように三台の車はそれぞれの地から出 発。ハウスオブレストにおいてクラッシュのチーム とも合流。ハウスオブレストはキリスト教のペンショ ンであり、現在クラッシュの那須ベースとして借り 上げられています。那須のベースチームは3名。 すでに避難所ビックパレットとの関係を持ち、避難



クラッシュのエモーショナルケア責任者 アンディー・ミーコ師



ハンドマッサージの練習



避難所ビッグパレット福島に到着



避難所の巨大倉庫



ホーリネス 第4回ボランティアチーム

所内で英会話クラスが始められていました。この 関係をルートにエモケアの活動がなされます。那 須ベースでは今回初めてボランティアを受け入れ オペレーションがなされました。

まず、ベースチームによってオリエンテーションがありました。その後、カウンセラーでありクラッシュのエモーショナルケアの責任者であるアンディ・ミーコ先生よりエモケアの講習。PTSDのチェックリストの使い方や、回復の手助けの仕方などを学びました。夜はハンドマッサージの練習。みんなはじめて体験するハンドマッサージ。果たして効果はあるのかと不安を持ちながらも一生懸命練習しました。この日は翌日から避難所に行き避難者に会うための備えがなされました。果たして明日どうなるのか、避難所内でのエモケアの活動が許されるのか、避難者は話をしてくれるだろうか、ハンドマッサージを受けてくれるだろうか、自分たちは受け入れてもらえるのだろうか、不安ばかりが募る夜でした。

26日朝、もう一度ロールプレイ形式でエモケアのトレーニングをしてからビックパレットに向かいました。ハウスオブレストから高速を使って1時間。ビックパレットは近代的で非常に大きな複合コンベンション施設。そこに約1600人の避難者が生活しています。避難所の環境としてはおそらく最高にいいのではないでしょうか。すべてが整えられています。ただプライバシーだけはありません。川内村と富岡町は村・町ごとここに避難しています。現在は日に日に避難者は減っています。多くの人は原発のために避難してきた人でした。しかし中には津波の被害を受けて大きな痛みを負う人もいました。

避難所へは何の問題もなく入ることができました。大きな避難所であるゆえに、誰でも入ることができ、誰からも監視されることもありませんでした。私たちは3つのグループに分かれてそれぞれの持ち場が決められ、エモケアが始められました。思いのほか多くの方が話をしてくださいました。ハンドマッサージもさせていただくことができました。そして皆さんとても喜んでくださいました。ハンドマッサージの効果は絶大でした。避難所の夕食の時間6時30分で活動を切り上げ、食事をして帰途につきました。1日目は緊張していたのか、思い

のほか疲れました。しかし多くの抱えていた不安は 解消されていました。その日私たちは多くの方と 触れあうことができましたが、私たちとの関わりを 拒む方もいました。本当にケアが必要なのはそう いう人であることを気づかされ、翌日の課題となり ました。

27日朝、タッピングの講習を受けました。これは 経絡を刺激することでストレスを発散しリラックス 効果があるものです。昨日と同じようにビックパ レットに向かい、同じ担当エリアのエモケアをしま した。 車椅子の30代の男性の話を聞くことができ ました。津波の被害に遭い非常に多くの困難に襲 われ、おそらくPTSD であろうと思われる方でし た。しかし彼にははっきりとした目標があり、その 目標のために一生懸命生きておられました。私が 励ましを受けました。 適切な PTSD のケアがなさ れるように医者への相談を勧めました。クラッシュ にも情報を提供しサポートグループによるケアが必 要であることを引き継ぎました。避難所において 宗教活動・伝道することはできません。避難所の 不文律であり、ともすると出入り禁止・活動を禁 じられてしまうこともあります。しかしこの日、神様 は予想もしていなかったことをなさいました。一人 の40代の女性が涙を流して神様の愛を受け入れ ました。ヨハネ3:16が開かれ、祈りがささげられま した。彼女に聖書が手渡されました。人の思いや、 人の業を超えた神の御業としかいえない出来事で した。背後に修養生たちの祈りがありました。

28日、この日は午前中だけビックパレットでエモケアをしました。私たちが出会った人たちに、受け入れてくれたことを感謝し、また5月5日からは違うチームが来ることを伝えました。昼食をし、帰路につきました。

ビックパレットには住む家を失った多くの方がいます。心に傷を負った方がまだまだいます。心のケアの必要を感じました。そして、さらに大きな津波被害を受けた地域があることを覚えます。そこに暮らす人々にとって心のケアの必要はもっともっとあります。講習を受ける必要がありますが、難しくはありません。私たちも積極的に心のケアに取り組んでいくことが必要です。

援助協力委員会 東日本大震災 支援金献金 中間報告

< 2011 年 5 月 22 日現在>

<支援金 献金額>

・2010 年度分	70 件	11,600,066 円
• 2011 年度分	145 件	38, 137, 073 円
支援金献金の合計額	215 件	49, 737, 139 円

<支援金 支出額>

・クラッシュ・ジャパン (JEMA)	2,000,000 円	
・仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク	500,000 円	
・3.11 いわて教会ネットワーク	500,000 円	
・理事長訪問時の見舞金 2件	100,000円	
・諸経費(WEA、World Relief 視察、JEA 訪問の諸経費など)	1,028,806 円	
・現在、87 件の JEA 加盟被災教会へお見舞い金をお届け中	11,310,000円	(予定額)
5月22日現在の支援金 支出合計額	15, 438, 806 円	· (予定額含む)

<献金名称の変更について>

JEA 援助協力委員会の口座への献金の名称を、緊急支援通信第1号~3号では「義援金」、第4号以降は「支援金」と表記しておりますが、当初からの献金の目的は変わっておりません。「教会から教会へ」の原則のもとに、被災教会への見舞金、物資支援、地域ネットワークの支援、ボランティア派遣の支援、復興支援などの目的で使用する予定です。名称を変えた理由は、昨今の日本社会における共通理解として、「義援金」は日本赤十字社な

どを通して被災者全体に公平に現金で手渡されるものとの定義がひろがっていることを考慮したためです。「支援金」は地域ネットワーク支援やボランティア派遣支援など、現金で直接被災者に渡す形ではない支援も含むより広い意味合いでの献金と理解しております。表記が変わったことへの説明が不十分であったことをお詫びいたしますとともに、引き続き教会の援助協力活動推進のためにお祈りとご協力をよろしくお願いいたします。

東日本大震災のための支援献金は以下の口座にお振り込 みくださいますようお願いいたします。

●郵便振替: 00190-5-7790

加入者名: (JEA) 日本福音同盟援助協力委員会 ※通信欄に「東日本大震災支援金献金」と明記して ください。

●みずほ銀行: 九段支店 532-1673098加入者名: JEA 援助協力委員会

※みずほ銀行へ振り込まれる場合は、メールか FAX でお名前、住所、連絡先をお知らせください。

★ JEA-net (http://www.jeanet.org/)を通して世界・アジア・日本国内の教会の動向をお知らせしています。



日本福音同盟

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い (ピリピ 1:27)

総務局報告

- ◆ JEA を覚えてお祈りくださり感謝いたします。
- ◆2011年3月末で具志堅聖が退任し、4月1日より 品川謙一が総主事として就任いたしました。
- ◆ 2011 年 4 月より、総務局のメールアドレスが hqoffice@jeanet.org から adminoffice@jeanet.org に変わりましたので、メールソフトなどの設定の 更新をお願いいたします。

JEA ニュース 39 号 発行・日本福音同盟 (JEA) 発行者・原田憲夫 編集者・品川謙一 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1OCC#615 TEL: 03-3295-1765 FAX: 03-3295-1933 E-mail: adminoffice@jeanet.org http://www.jeanet.org/